

シュッコンカスミソウの夏秋期出荷作型における摘心方法と採花本数

大竹真紀

(福島県農業総合センター会津地域研究所)

Pinching Technique and Shoot Numbers for Harvest of *Gypsophila paniculata* L. in Summer and Autumn

Maki OTAKE

(Aizu Research Centre, Fukushima Agricultural Technology Centre)

1 はじめに

福島県会津地域のシュッコンカスミソウは、夏秋期の主産地として位置づけられており、市場性の高い品種が導入されてきている。しかし、近年の品種は、従来に比べて夏季の芽吹きが弱く、収量が低い問題が生じている。

暖地の主要品種「アルタイル」を育成した谷¹⁾は、摘心が芽数の確保に有効な手段であるとしている。

そこで、高冷地の夏秋出荷作型において採花本数を確保するための摘心方法について検討した。

2 試験方法

(1) 試験場所

育苗 福島県河沼郡会津坂下町 福島県農業総合センター会津地域研究所 標高180m

栽培 福島県大沼郡昭和村矢ノ原ほ場 標高650m

(2) 試験期間 2011～2012年

(3) 供試品種

アルタイル、パールスター

(4) 耕種概要

セル苗を2.5号ポットに仮植して育苗後、株間40cm×2条で雨除けハウスに定植した。

仮植日 2011年6月21日、2012年6月19日

定植日 2011年7月5日、2012年7月3日

施肥量 N、P₂O₅、K₂O 各1.0(kg/a)

(5) 区構成及び試験規模

区	摘心方法	
	1回目摘心	2回目摘心
仮植時1回(慣行)	仮植1週間後	なし
1茎2回	〃	定植1週間後最大伸長1茎
全茎2回	〃	1茎2回1週間後に残りの茎
定植後1回	定植10日後	なし

1区9株うち5株調査し、2反復で行った。

各4株については摘心位置の比較に供した。

3 試験結果及び考察

(1) 採花本数は、アルタイル、パールスターともに定植後1回≧全茎2回>仮植時1回=1茎2回の順であった(表1 図1)。定植後1回は、仮植時1回や1茎2回

に比べて2本程度優り、全茎2回に比べて同等以上で、アルタイルでは5本程度、パールスターでは7本程度採花できた(表1)。なお、2012年のパールスターは、仮植時1回の芽数が多く、採花本数は全茎2回と同等であった(表1)。

定植後1回の摘心位置は、6本仕立てを目標とする場合では5cm前後がよいと考えられた(図2)。

(2) 2L80cm規格の本数は、アルタイル、パールスターともに仮植時1回や1茎2回に比べ、定植後1回や全茎2回が優った(図1)。出荷規格上の品質に問題はなかった(データ省略)。頂芽優勢の強いこれらの品種を高温期に栽培する場合は、若苗で摘心を行うよりも定植後に生育量を確保してから摘心を行うほうが収量や品質が向上すると考えられた。

(3) 採花期は、アルタイルの2011年では仮植時1回>1茎2回>全茎2回>定植後1回の順に早かったが、アルタイルの2012年およびパールスターでは仮植時1回>1茎2回>定植後1回>全茎2回の順に早かった(表2)。2012年の到花日数は、アルタイルでは54日前後、パールスターでは64日前後で、1茎2回がやや短かった(表2)。日平均気温は、2011年では8月下旬に気温の低い日が続いたが、2012年では9月中旬以降の気温が高く推移した(図3)。生育適温であれば到花日数の差が大きくないことから、採花期は最終摘心日を目安として調節が可能であると考えられた。

4 まとめ

以上の結果から、シュッコンカスミソウの夏秋期出荷作型において、定植後1回または全茎2回摘心とすることで採花本数を確保でき、上位規格品の割合も高まると考えられた。また、採花期は、摘心方法により異なり、最終摘心日を目安として調節が可能であると考えられた。

なお、本試験は、昭和村花き振興協議会の協力で実施した。

引用文献

1) 谷一道. 2009. シュッコンカスミソウ「アルタイル LG」の栽培技術. 農耕と園芸 2009.3:100-103.

表1 摘心方法の違いと採花本数

品種	区	採花本数(本)	
		2011*1	2012
アルタイル	仮植時1回	3.5 b*2	2.9 b
	1茎2回	3.5 b	2.9 b
	全茎2回	5.3 a	4.1 b
	定植後1回	5.0 a	5.8 a
パールスター	仮植時1回	3.8 c	6.2 ab
	1茎2回	4.1 bc	5.6 b
	全茎2回	5.3 b	6.4 ab
	定植後1回	6.8 a	7.4 a

*1 試験年度

*2 同一試験年度および同一品種の区間において、Tukeyの多重比較法により、異符号間に5%水準で有意差あり。

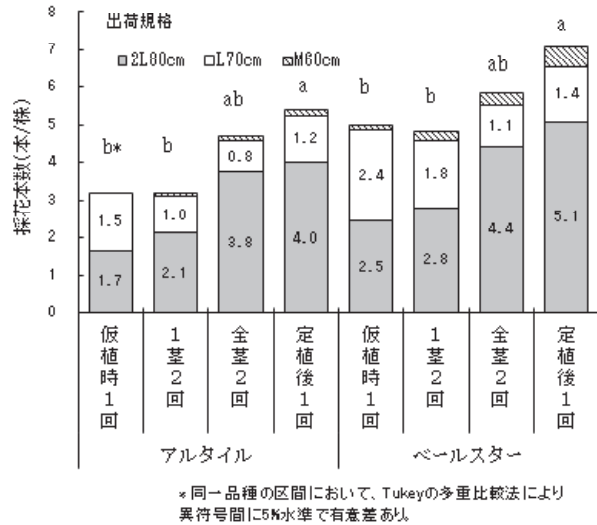


図1 摘心方法の違いによる規格別採花本数

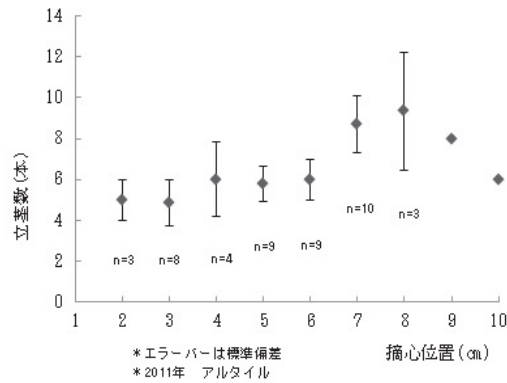


図2 定植後1回の摘心位置と立茎数

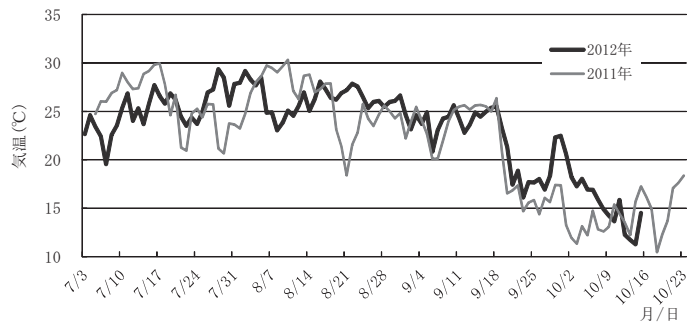


図3 日平均気温の推移(昭和村矢ノ原ほ場)

表2 摘心方法の違いによる採花期と到花日数

品種	区	2011*1				2012*1			
		採花期*2(月/日)			到花日数*3 (日)	採花期(月/日)			到花日数 (日)
		始期	盛期	終期		始期	盛期	終期	
アルタイル	仮植時1回	8/23	8/30	9/6	62	8/21	8/24	8/31	58
	1茎2回	8/27	9/1	9/15	49	8/21	8/28	9/15	48
	全茎2回	9/6	9/18	10/8	58	9/4	9/11	9/29	54
	定植後1回	9/14	9/24	10/14	69	8/29	9/6	9/18	54
パールスター	仮植時1回	9/5	9/8	9/16	70	8/27	9/1	9/12	65
	1茎2回	9/5	9/9	10/12	57	8/29	9/3	9/23	53
	全茎2回	9/15	9/29	10/17	69	9/9	9/23	10/10	66
	定植後1回	9/8	9/13	10/19	58	9/1	9/15	10/2	63

*1 試験年度

*2 始期、盛期、終期はそれぞれ採花本数が全体の10、50、90%に達した日

*3 最終摘心日～採花盛期までの日数